(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3145620号
(U3145620)

(45)発行日　平成20年10月16日(2008.10.16)　(24)登録日　平成20年9月24日(2008.9.24)

(51)Int.Cl.		F I		
A24F 47/00	(2006.01)	A24F	47/00	
B65D 85/10	(2006.01)	B65D	85/10	
B65D 85/72	(2006.01)	B65D	85/72	F

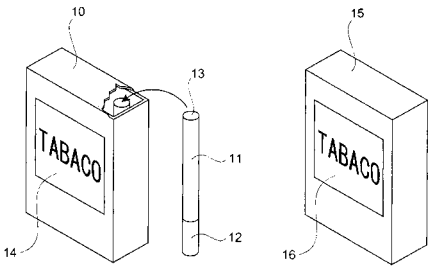
評価書の請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 8 頁）

(21)出願番号　実願2008-5266(U2008-5266)
(22)出願日　平成20年7月30日(2008.7.30)

(73)実用新案権者　507273242
平井　公二
愛媛県今治市中日吉町３丁目４番７号Ｆｃｏｕｒｔ４１６号
(74)代理人　100111202
弁理士　北村　周彦
(72)考案者　平井　公二
愛媛県今治市中日吉町３丁目４番７号Ｆｃｏｕｒｔ４１６号

(54)【考案の名称】擬似嗜好物品

(57)【要約】　（修正有）
【課題】アルコール依存症や煙草（ニコチン）依存症などの各種依存症の対策として有益な擬似嗜好物品を提供する。
【解決手段】擬似嗜好物品１０は、例えば煙草やビールなどのアルコール飲料
の如き市販の嗜好品１５の包装外形部１６と同一若しくは類似する包装外形部１４を有し、その包装外形部の中には市販の嗜好品１５の内容物とは異なる内容物である擬似内容物１３が含まれているか、あるいは市販の嗜好品の内容物と同一の内容物が摂取不能な状態で含まれていることを特徴とする。使用者は、擬似嗜好物品を認知し、摂取する真似を途中まで或いは最後まで行い、しかし、アルコールや煙草を摂取しないという一組の作業を反復することにより、当初は発現していた条件反射は、徐々に低減し、最後にはアルコールや煙草などに対する欲求が起こらなくなり、禁酒や禁煙などを促進することができる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部を有し、その包装外形部の中には、市販の嗜好品の内容物とは異なる内容物が含まれているか、あるいは市販の嗜好品の内容物と同一の内容物が摂取不能な状態で含まれていることを特徴とする擬似嗜好物品。
【請求項２】
前記市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部は、市販の煙草のパッケージと同一若しくは類似するパッケージであり、本来煙草葉が詰められている部分には内容物として煙草葉あるいは煙草葉以外の擬似物質が含まれており、フィルター部と煙草葉あるいはフィルター部と疑似物質の間は遮蔽物で遮られ、フィルター部の外側には複数の細孔が形成されていることを特徴とする請求項１記載の擬似嗜好物品。
【請求項３】
前記市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部は、市販のアルコール飲料の包装形態と同一若しくは類似する包装形態を有し、前記擬似内容物として前記アルコール飲料の内容物以外の液体が含まれていることを特徴とする請求項１記載の擬似嗜好物品。
【請求項４】
前記アルコール飲料の内容物は、ビール、発泡酒、日本酒、洋酒、果実酒、中国酒などの市販されている飲料であることを特徴とする請求項３記載の擬似嗜好物品。
【請求項５】
前記市販のアルコール飲料の包装形態は、瓶、缶、陶磁器、或いは樹脂若しくは紙パッケージなどの包装材であり、表面に所定の模様や印刷が施されているものであることを特徴とする請求項３記載の擬似嗜好物品。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は種々の嗜好品に対して適用可能であって中身の異なる擬似嗜好物品、あるいは中身が同じでも摂取できない仕掛けのある疑似嗜好物品に関し、特にアルコール依存症やニコチン依存症などの各種依存症の対策として有益な擬似嗜好物品に関する。
【背景技術】
【０００２】
アルコール飲料や煙草などの嗜好品は、市販され広く消費者が入手可能な商品ではあるが、アルコール飲料の飲みすぎや煙草の吸い過ぎなどの過度の摂取は人体の健康を害するおそれがあり、アルコールやニコチンの摂取を繰り返し行うことで、それらの物質を求める抑えがたい欲求が生じて、それらの物質を追い求める行動が優位となり、それらの物質を摂取しないと不快な精神的・身体的症状を生じる依存症などの問題も発生し得る。
【０００３】
例えば、煙草の場合などでは、喫煙者の多くが喫煙や節煙を望んでいることもあり、このような禁煙等を図る喫煙者のためのキットとして種々のものが提案されている。例えば、実際に使用する場合にリアル感があって、使用した場合に効果的に節煙又は禁煙が可能な禁煙パイプ（例えば、特許文献１参照。）なども知られている。また、アルコール又はコカインの依存症又は中毒、煙草の依存症又は中毒を治療し、アルコールの禁断症状を低下させ又は禁酒を援助し、アルコール摂取若しくは薬物乱用又はギャンブルなどの行動的依存症を軽減させるための薬剤組成物（例えば、特許文献２参照。）なども知られている。
【特許文献１】特開２００２－７８４７６号公報
【特許文献２】特表２００７－５０２８０８号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】

【０００４】
しかしながら、上述の喫煙者のためのキットとその使用法は、十分に渇望を抑制するものとなっていない。また、アルコールの禁断症状を低下させるような薬剤組成物は、それ自体が薬剤であることから人体への副作用なども懸念されるところであり、医者などの投与を指示する者が、認知機能、患者の年齢、先在疾患の存在、及び他の疾患の存在（例、心臓血管）のような種々の因子を調和させなければならないという問題もあり、薬物としての使用には所要の許認可などの新たな問題も発生することになる。
【０００５】
そこで、本考案は上述の技術的な課題に鑑み、アルコール依存症や煙草依存症などの各種依存症の対策として有益な擬似嗜好物品の提供を目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上述の技術的な課題を解決するため、本考案の擬似嗜好物品は、市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部を有し、その包装外形部の中には市販の嗜好品の内容物とは異なる内容物が含まれることか、あるいは市販の嗜好品の内容物と同一の内容物が摂取不能な状態で含まれていることを特徴とする。
【０００７】
本考案においては、包装外形部が同一若しくは類似する関係となる市販の嗜好品は、例示すると、煙草やアルコール飲料などが挙げられ、アルコール飲料としては、ビール、発泡酒、日本酒、洋酒、果実酒、中国酒などの市販されている飲料などが例示される。前記市販の嗜好品が煙草である場合には、包装外形部は例えば煙草のパッケージであり、前記市販の嗜好品がアルコール飲料である場合には、その包装形態は、例えば瓶、缶、陶磁器、或いは樹脂若しくは紙パッケージなどの包装材であって表面に所定の或いは類似した模様や印刷が施されているものとされる。
【０００８】
本考案の擬似嗜好物品は、煙草やアルコール飲料などの依存症などの患者やそのおそれがある者、さらには禁酒や禁煙を志す者や、例えば家族や友人などの自分の周囲にいる人に禁酒や禁煙を促す場合にも使用可能な物品である。本考案の擬似嗜好物品では、自らの希望で若しくは周囲からの要求により禁酒や禁煙を図る必要が有る者は、市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部を視認した際、あるいは、これらの包装外形部を手にする行為、包装外形部の包装を解いて摂取の途中までの行為をした際、また、あるいはアルコール疑似飲料である場合には実際にその内容物であるアルコールではない液体を摂取する行為、擬似煙草の場合には火をつけようとする行為をした際に、当初は条件反射が起こるものの、これらの行為に続いてアルコールや煙草を摂取しなければ、これらの行為を反復することにより、当初は発現していた条件反射は、徐々に低減し、最後には条件反射が起こらなくなる。つまり、最後には物質に対する欲求が起こらなくなり、ひいては禁酒や禁煙などの健康を増進する作用を期待することができる。
【考案の効果】
【０００９】
本考案によれば、市販の嗜好品の包装外形部と同一若しくは類似する包装外形部を有していることから、使用者は、擬似嗜好物品が偽物であることを承知した上で、包装外形部を視認すること、あるいは、これらの包装外形部を手にする行為、包装外形部の包装を解いて実際にその内容物であるアルコールではない水溶液を摂取する行為、擬似煙草の場合には火をつけようとする行為をした際に、それらの行為が刺激となって、当初は条件反射により欲求が誘起されることになる。そして、使用者がこれらの行為を行うが、アルコールや煙草を摂取しないということを反復することにより、当初は発現していた条件反射は、徐々に低減し、最後にはアルコールや煙草などに対する欲求が起こらなくなり、禁酒や禁煙などを促進することができる。
【考案を実施するための最良の形態】
【００１０】

本考案の好適な実施形態について図面を参照しながら説明する。

[第１の実施形態]

本考案の第１の実施形態は、市販の嗜好品が煙草である場合の擬似嗜好物品の例である。図１に示すように、通常市販されている１ケースの煙草１５は、その商品を識別させるために商標その他のパッケージデザインが包装外形部１６に施されており、その煙草１５を吸おうとする者は所定の煙草販売装置やお店を通じて包装外形部１６を視覚で認識しながら煙草１５を入手することができる。

【００１１】

この市販されている１ケースの煙草１５と外見上ほぼ同一のパッケージデザインからなる包装外形部１４を有しているのが、第１の実施形態の擬似嗜好物品である擬似煙草１０であり、内部には実際の一本一本の煙草と見かけ上同様なバラの状態の擬似煙草１３が内容物として含まれている。

【００１２】

擬似煙草１０の構造を本物の市販の煙草１５と比較してみると、その外観を構成する包装外形部１４と包装外形部１６の各パッケージデザインは共通であり、内部に含まれるバラ状態の煙草も一見して見間違う程度の類似点を持った擬似煙草１３となっている。

【００１３】

このバラの状態の擬似煙草１３は、以下の点で本物の煙草とは異なる。すなわち、図２に良く示されているように、バラの状態の擬似煙草１３は、市販の煙草の内容物と同一の煙草葉１１とフィルター部１２との間は紙などの遮蔽物１７で遮られている。これにより、フィルター部１２と煙草葉１１間では気体が流通しないため、過去には煙草１５を吸ってきた者が、煙草１５からの視覚刺激等と同様の刺激を受けながら、擬似煙草１０を用いて喫煙不能な状態で喫煙の真似をすることとなる。また、フィルター部１２の外側には複数の細孔１８が形成されており、これらの細孔１８を通ってフィルター部１２の外部から内部に空気が入り、自然な吸引ができるようになっている。なお、擬似煙草１３の内容物としては、市販の煙草の内容物と同一の煙草葉ではなく、該内容物と異なる擬似物質が含まれていてもよい。

【００１４】

このような擬似煙草１０は、通常市販されている煙草１５とは区別を持って購入できるものとされ、例えば、本人が健康を気づかって禁煙を誓うときや、家族、友人などの関係から禁煙を勧める立場にあるものが本人にその擬似煙草１０が本物ではないものであることを説明し認識させながら入手できるものとされることが好ましい。

【００１５】

禁煙を志す者は、第１の実施形態の擬似嗜好物品である擬似煙草１０を治療のために意図的に利用するのであり、煙草への欲求抑制の効果を得るために、使用者は擬似嗜好物品である擬似煙草１０を偽物と知りながら、入手し、摂取する準備をし、それらを含む摂取行動の全てあるいは一部を行い、このように意図的に刺激に自らを曝露し、しかし、煙草を摂取しないという一組の作業を反復するものである。

【００１６】

当初は、市販されている１ケースの煙草１５と外見上ほぼ同一のパッケージデザインからなる包装外形部１４の外観からの視覚情報、あるいは、疑似摂取行為を刺激とする反射として、喫煙についての渇望が誘起されるが、これらの行為の後にはしばらく（２０分～３０分）は喫煙しないという一組の作業を反復することにより、当初は刺激により条件反射が生じて欲求が誘起されても、作業反復後には、条件反射が生じなくなり、喫煙についての渇望が生じなくなり、この機序により、禁煙が促進できることになる。

【００１７】

本実施形態の擬似嗜好物品である擬似煙草１０の包装外形部１４のパッケージデザインは、市販されている煙草１５と外見上ほぼ同一として説明したが、擬似煙草１０の包装外形部１４のパッケージデザインは必ずしもほぼ同一である必要はなく、本物と見間違うような類似のパッケージデザイン、あるいは煙草のパッケージと認識するデザインであって

もよい。また、手に取ったときの重さが擬似煙草１０と市販の煙草１５で近いものであれば、手に取った後でも喫煙者に本物と同様の重量的な刺激を与えることとなる。

【００１８】

なお、本実施形態の擬似煙草１０は、図１に示すように、箱型のデザインのものであるが、市販の煙草が缶入りの場合は、擬似煙草を缶入りとすることもできる。

[第２の実施形態]

本考案の第２の実施形態は、市販の嗜好品が瓶ビールである場合の擬似嗜好物品の例である。図３に示すように、先ず、通常市販されている瓶ビール２５は、その表面のやや底面側に近い側面部には“ＢＥＥＲ”と表記されたラベル２８が貼り付けられており、当該瓶ビール２５の内容物はアルコール飲料として所定のアルコール度に調整されたビール２６であり、その瓶の首のところには王冠２７による封が施されている。この市販されている瓶ビール２５の包装外形部は、ラベル２８と王冠２７を備えた瓶自体とされる。

【００１９】

一方、この通常市販されている瓶ビール２５に対して、本実施形態の擬似嗜好物品である擬似瓶ビール２０は、市販されている瓶ビール２５のラベル２８と王冠２７を備えた瓶自体とほぼ同一の外観を有する包装外形部を有しており、当該擬似瓶ビール２０の瓶自体やラベル２３及び王冠２２は、市販されている瓶ビール２５の瓶自体やラベル２３及び王冠２７と共通である。このように市販されている瓶ビール２５と本実施形態の擬似嗜好物品である擬似瓶ビール２０は、その外観で共通性を有しているが、擬似瓶ビール２０にはビールなどのアルコール飲料が内容物とはされずに、例えば水などのビールではない液体２１が充填される。なお、ラベル２３、２８の“ＢＥＥＲ”の表記は説明のための単なる例示に過ぎない。

【００２０】

禁酒を志す飲酒常習者は、このような擬似瓶ビール２０を治療のために意図的に利用するのであり、飲酒への欲求抑制の効果を得るために、使用者は擬似嗜好物品である擬似瓶ビールを偽物と知りながら、入手し、コップ等に液体２１を注ぐなどの摂取の準備をし、それらを含む摂取行動の全てあるいは一部を行い、このように意図的に刺激に自らを曝露し、しかし、数十分程度の時間はアルコールを摂取しないという一組の作業を反復するものである。当初は刺激により条件反射が生じて欲求が誘起されても、作業反復後には、条件反射が生じなくなり、飲酒についての渇望が生じなくなり、この機序により、禁酒が促進できることになる。

【００２１】

なお、本実施形態では、内容物をビール以外の液体２１として説明したが、気体や固体などを内容物とすることも可能である。本実施形態の擬似嗜好物品である擬似瓶ビール２０の包装外形部は、市販されている瓶ビール２５と外見上ほぼ同一として説明したが、必ずしもほぼ同一である必要はなく、本物と見間違うような類似の瓶ビールのデザインであっても良い。

[第３の実施形態]

本考案の第３の実施形態は、市販の嗜好品が缶入り発泡酒である場合の擬似嗜好物品の例である。図４に示すように、先ず、通常市販されている缶入り発泡酒３５は、その周側面部には“発泡酒”と表記された印刷面３８を有しており、当該缶入り発泡酒３５の内容物はアルコール飲料として所定のアルコール度に調整された発泡酒３６であり、管の上面にはプルタブ３７による封が施されている。この市販されている缶入り発泡酒３５の包装外形部は、印刷面３８を含めた缶の外形部分である。

【００２２】

一方、この通常市販されている缶入り発泡酒３５に対して、本実施形態の擬似嗜好物品である擬似缶入り発泡酒３０は、プルタブ３２による封が施されており、市販されている缶入り発泡酒３５の所定の印刷面３８を備えた缶自体とほぼ同一の外観を有する包装外形部を有しており、当該擬似缶入り発泡酒３０の所定の印刷面３３を備えた缶自体は、市販されている缶入り発泡酒３５の所定の印刷面３８を備えた缶自体と共通である。このよう

に市販されている缶入り発泡酒３５と本実施形態の擬似嗜好物品である擬似缶入り発泡酒３０は、その外観で共通性を有しているが、擬似缶入り発泡酒３０には発泡酒などのアルコール飲料が内容物とはされずに、例えば水などの発泡酒ではない液体３１が充填される。なお、印刷面３３、３８の“発泡酒”の表記は説明のための単なる例示に過ぎない。

【００２３】

禁酒を志す飲酒常習者は、このような擬似缶入り発泡酒３０を治療のために意図的に利用するのであり、飲酒への欲求抑制の効果を得るために、使用者は擬似嗜好物品である擬似発泡酒を偽物と知りながら、入手し、コップ等に液体３１を注ぐなどの摂取の準備をし、それらを含む摂取行動の全てあるいは一部を行い、このように意図的に刺激に自らを曝露し、しかし、数十分程度の時間はアルコールを摂取しないという一組の作業を反復するものである。当初は刺激により条件反射が生じて欲求が誘起されても、作業反復後には、条件反射が生じなくなり、飲酒についての渇望が生じなくなり、この機序により、禁酒が促進できることになる。

【００２４】

なお、本実施形態では、内容物を発泡酒以外の液体３１として説明したが、気体や固体などを内容物とすることも可能である。本実施形態の擬似嗜好物品である擬似缶入り発泡酒３０の包装外形部は、市販されている缶入り発泡酒３０と外見上ほぼ同一として説明したが、必ずしもほぼ同一である必要はなく、本物と見間違うような類似の缶入り発泡酒のデザインであっても良い。

【００２５】

なお、上述の実施形態では、煙草、瓶ビール、缶入り発泡酒の例について説明したが、擬似嗜好物品の対象としては、これらの物品に限定されず、他の形態の煙草や、その他のビール、発泡酒、焼酎、日本酒、洋酒、ワイン、果実酒、中国酒などの市販されている種々の飲料など対象とすることができる。また、市販の嗜好品がアルコール飲料である場合には、その包装形態は、例えば瓶、缶、陶磁器、或いは樹脂若しくは紙パッケージなどの包装材であって表面に所定の模様や印刷が施されているものであっても良い。

【００２６】

物質摂取促進の機序は（１）心理学的現象、（２）大脳生理学的現象、（３）神経生理学的現象の三つに分類される。（２）の機序は条件反射が、自律神経系の変調、気分の変調、行動を制御する記憶を生じさせるものであり、これらが渇望となる。この内の自律神経系の変調と気分の変調は、それぞれ一つの条件反射の回路により生じる。また、行動を制御する記憶は、当初は思考により制御された動作が、反復により学習され、後には刺激が入ると反射として生じる記憶に制御される現象を成立させる。記憶が生じる条件反射の１つの回路は、刺激とそれに対する反射として生じる記憶に制御される１つの動作とその動作に伴う知覚である。ある回路の反射が次の回路の刺激となる機序により、複数の条件反射つまり複数の動作と知覚が順序よく連続し、物質摂取行動を成立させる。

【００２７】

渇望は、上記の内の（２）大脳生理学的現象の行動を制御する記憶が、何らかの刺激に反射として作動し、物質摂取行動を進めるが、これに物質を摂取しないでおこうとする理性的判断、あるいは、物質がないという状況が摩擦するときに感じるものである。（２）大脳生理学的現象の自律神経系の変調および気分の変調は、渇望の主要素でなく、行動を制御する記憶の作動に付随するものである。

【００２８】

したがって、上記各実施の形態において説明したように、偽アルコール飲料あるいは仕掛け煙草とその包装パックを身の回りにおいたり、パックになったあるいは単独の偽アルコール飲料、あるいは仕掛け煙草の包装パックを手にとり、包装をはずし、口を開け、という動作の連鎖の後に、摂取の真似をする、あるいは偽アルコールなら飲用を完了したり（これもアルコール摂取の真似といえる）することにより、刺激のみ与え、物質の薬理効果を反復摂取者に与えないために行動は強化されないことが反復されるので、社会内の刺激のあるところでも依存性物質への条件反射の作動が抑制され、アルコールや煙草への渇

望が抑制される。

【図面の簡単な説明】

【００２９】

【図１】本考案の第１の実施形態の擬似嗜好物品と市販の煙草を模式的に示す斜視図である。

【図２】本考案の第１の実施形態の擬似嗜好物品においてバラの状態の擬似煙草を示す平面図である。

【図３】本考案の第２の実施形態の擬似嗜好物品と市販の瓶ビールを模式的に示す斜視図である。

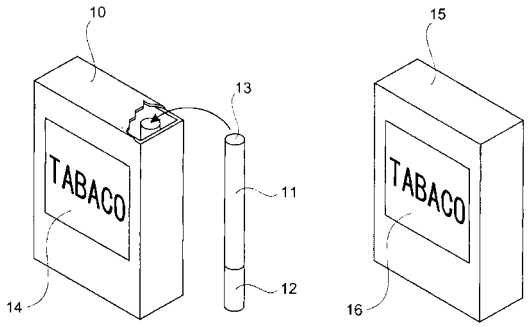
【図４】本考案の第３の実施形態の擬似嗜好物品と市販の缶入り発泡酒を模式的に示す斜視図である。

【符号の説明】

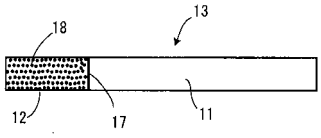
【００３０】

１０ 擬似煙草
１１ 充填物
１２ フィルター部
１３ 擬似煙草
１４ 包装外形部
１５ 市販の煙草
１６ 包装外形部
２０ 擬似瓶ビール
２１ 液体
２２ 王冠
２３ ラベル
２５ 市販の瓶ビール
２６ ビール
２７ 王冠
２８ ラベル
３０ 擬似缶入り発泡酒
３１ 液体
３２ プルタブ
３３ 印刷面
３５ 市販の缶入り発泡酒
３６ 発泡酒
３７ プルタブ
３８ 印刷面

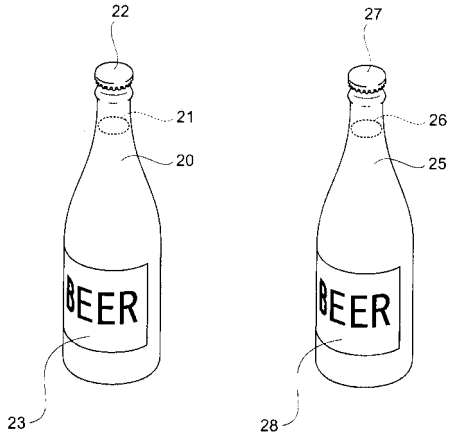
【図１】


10
13
TABACO
11
12
14
15
TABACO
16

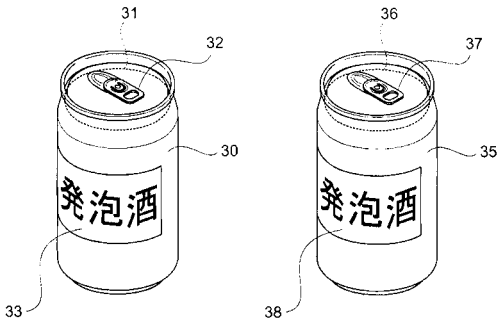
【図２】


13
18
12
17
11

【図３】


22
21
20
BEER
23
27
26
25
BEER
28

【図４】


31
32
30
発泡酒
33
36
37
35
発泡酒
38